

知須、波那婆知須、微能佐加理毘登、登母志岐呂加母

川派江
國律華

攝津國
難波江

〔日本書紀十
一德〕十一年四月甲午詔群臣曰今朕視是國○津者郊澤曠遠而田圃少乏且河水橫逝以流末不駛聊逢霖雨海潮逆上而巷里乘船道路亦溼故群臣共視之決橫源而通海塞逆流以全田宅十月掘宮北之郊原引南水以入西海因以號其水曰掘江

〔萬葉集雜歌〕攝津作
作夜深而穿江水手鳴松浦船櫂音高之水尾早見鳴
サヨ フケ ホリエコ グル マツラ ブネ カチイトタカシミ ヲヤミ カモ

〔金葉和歌集雜〕北方うせ侍りて後天王寺にまいりけるみちにてよめる、六條右大臣難波江の蘆のわかねのしげければ心もゆかぬ舟出をぞする

〔萬葉集十五〕遣新羅使人等悲別贈答、及海路慟情陳思、并當所誦詠之古歌、

萬葉集譬喻歌寄草

卷之三

遠江國
引佐細江

三島江

三島江

下總國
真々入江

下總國
真々入江

〔萬葉集三〕挽歌○過勝鹿眞間娘子墓時、山部宿禰赤人作歌一首并短歌、略

集三挽歌過勝鹿真間娘子墓時山部宿禰赤人作歌一首并短歌略